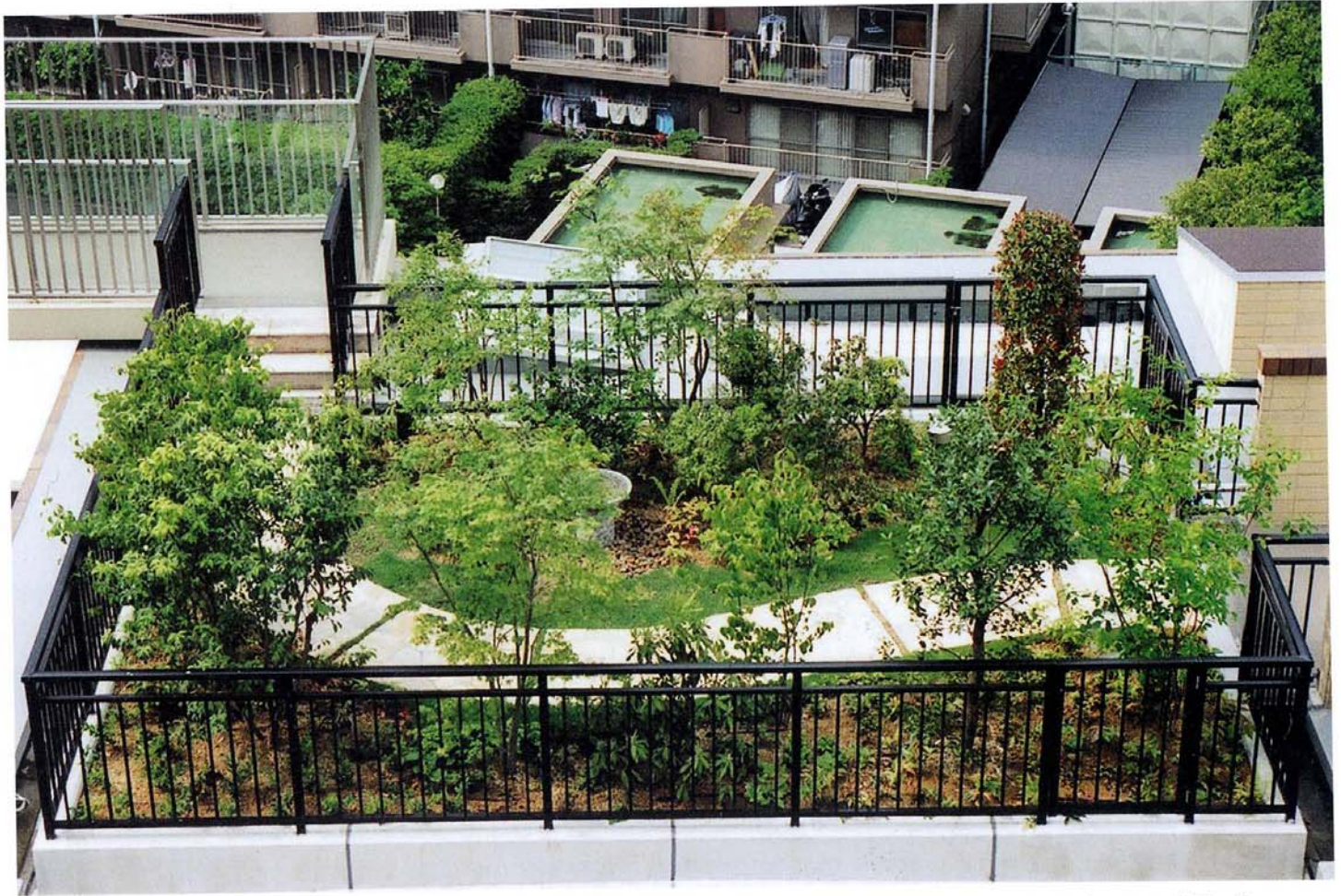


## ■ ■ テーマが異なる5つの庭園をブリッジでつなく



バードガーデンの全景。鳥の目から見える庭園シーン。

1934年に完成した同潤会江戸川アパートメントは中庭を取り囲むように建物が配置され、この中庭が江戸川アパートの大きな特徴となっていた。

建築的な規制等で、従来の中庭機能を地上部につくり出すことは困難なため、屋上スペースに空中庭園を創出、中庭空間が担っていたコミュニティ機能の場とした。

テーマが異なる5つのエリアをブリッジでつないだ回遊形の庭園とし、地上部とは一味違う参加形のしつらいとした。住民と緑の触れ合いの場であり、五感で体感できる癒し空間、そして子供たちの原風景としての庭園要素にも配慮した計画とした。

緑化面積620㎡の屋上庭園の中で最大面積のナチュラルガーデンには、シンボリックなガゼボを配置し、モミジ、エゴノキなどの雑木をベースにアラカ

シ、ヤマモモなどの常緑樹を植栽し、木立ちで囲むことで空中庭園を意識しない森空間とした。砂利洗い出し仕上げのアプローチでつながったテラスは逆にオープンスペースとし、高中木は数本のみとして、灌木の刈り込みをベースに広がりのある明るいコミュニケーションスペースとした。

次のバードガーデンは、鳥の水浴び場のバードバスを中央にウメモドキ、ガマズミ、ジュンベリー等の実の成る木をベースに植栽し、野鳥の飛来を促すしつらいとした。

ハーブキッチンガーデンは、レモン、甘ナツミカン、ユズの柑橘類の果樹と、ローズマリー、タイム、チャイブ、カモミール、ラベンダー等のハーブ類、さらにトマト、ストロベリーなどの野菜類が植栽できるスペースを方形でデザイン。タイルの飛び石がアプローチ



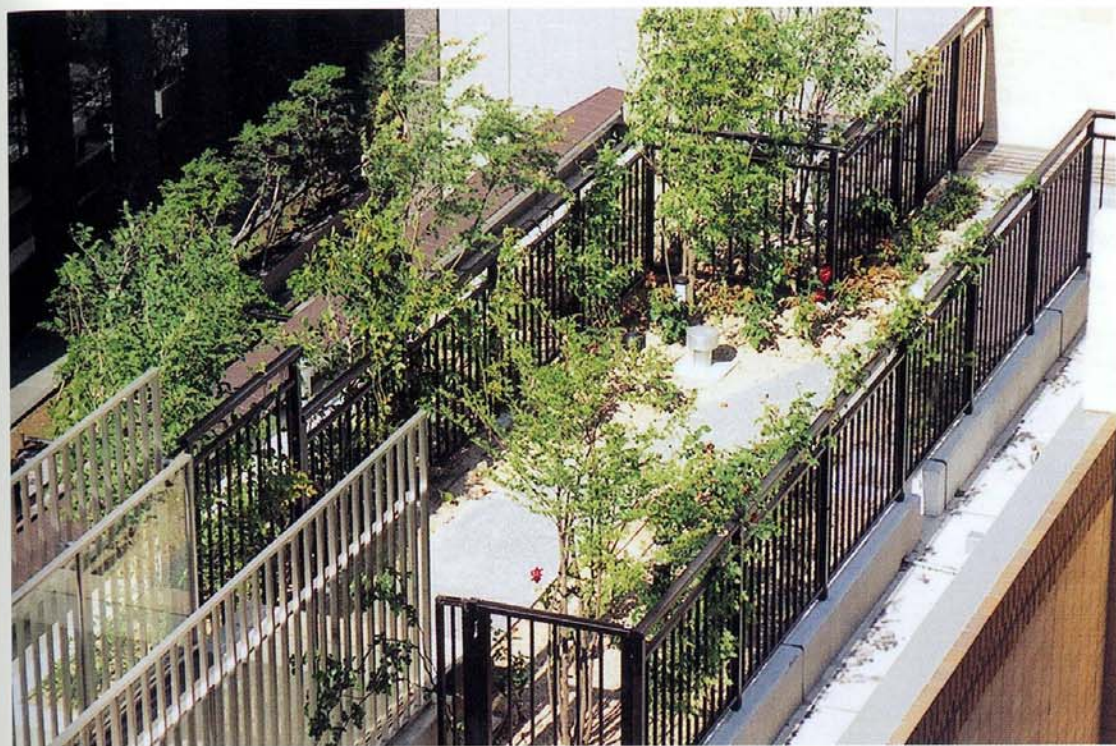
イロハモミジ



ウメモドキ



レモン



ローズガーデンの全景。各庭園をつなぐブリッジも、数年後には緑と花の回廊となる。

植栽、その中央部に貫けた窓状の広がりから都市空間が一望できる仕掛けとした。

ナチュラルガーデン、バードガーデンおよびハーブガーデン、ローズガ

ーデンをつなぐブリッジには、モッコウバラおよびツルバラを植栽することで、数年後には通路としての機能に緑の回廊として、空中庭園の醍醐味をプラスする演出とした。

植栽された2m以上の中高木類は全て地下支柱とし、地上部に支柱材が見えないことで空中庭園がより自然な景観となる仕様とした。

植栽客土層は平均35cmとし、人工軽量土壌を使用したビルマテルのシステムを採用した。灌水は自動灌水装置を設置し、不足スペースは管理者の手灌水によってカバーする手法とした。

庭園階下は住居となっているため、アプローチおよびテラススペースは防音処理後、石貼り、タイル貼り等の仕上げとし、集合住宅において問題となる防音対策を処理した。

この参加形の庭園は、人々が参加して始めて庭園としての機能を発揮するデザインとなっており、住民が積極的に参加し、利用することで庭園が美しく維持され、緑を核としたコミュニティの場として有意義な空間になるものと思われる。



ハーブキッチンガーデンの全景。植物を通して人と人が触れ合えるような場所となる。



ヤマボウシ



モッコウバラ

とメンテナンスの足場を兼ねる手法とした。

ローズガーデンはモダンローズを中心に植栽し、景観を演出する花木は、ヤマボウシ、エゴノキ、サルスベリ白花、白ワビスケ等、白花で統一することでバラの花色との調和を図った。

南棟7F中央部に位置するドッグウッドガーデンは、2本のハナミズキの間にテラスを設け、他の4つの庭園とは異なるシンメトリーのデザインとした。庭園南側にはパーゴラを設置しフジを

# ソフト・ハード両面での維持管理



現在（2005年8月時点）において、入居者の引越し状況は60%程度であり（2005年6月で全住戸引渡し済）、本来の運営に向けての準備段階である。

この規模の屋上庭園を運営するには、管理者と入居者との協議を重ね新たな規則をつくり上げていくことが必要と思われる。安全面や衛生面の向上と同時に、規則に縛られすぎてコミュニティ空間としての機能を損なわないようなソフトづくりが重要となるだろう。

## 将来的には住民参加型の維持管理も視野に

江戸川アパートメントの管理組合との調整が取れていないため、今後多少の変更はあるものと思われるが、基本的な庭園管理の方向性を記す。

高木類（アラカシ、ヤマモモ、モミジ、エゴノキ、ヤマボウシ等）は、屋上庭園であることから風対策として樹高を2.5～3.0m以内で維持するため、年1回の剪定において調整する。

低木および灌木、下草類は基本的には開花後の手入れとし、バラ等の特殊植物は適宜に年数回の作業とする。

消毒作業は病虫害の発生時期に合わせて年間3回の作業とする。日々の庭園維持管理の基本となる除草清掃作業は建物の清掃管理者の手により、そのシステムに取り込むことで作業の効率を上げ費用の軽減を図る。給水管理は自動灌水設備によりほぼ全体がカバーされるが、植物の状態に合わせて不足分は手灌水とする。

江戸川アパートメントの屋上庭園は緑を核としたコミュニティの形成を促すことが目的の一つであり、将来的には良好なコミュニティ形成のためにも住民が参加し、自ら管理することも検討が必要と思われる。

特にハーブキッチンガーデンにおいては日々の生活の中で使える植物であり、日々の手入れがあってはじめて成り立つ庭園といえるため、住民の方々の早急な参加が望まれる。

ドッグウッドガーデンを上階より見る。植物の緑とテラコッタタイルがシャープなコントラストを演出。

執筆担当者  
NEXT ARCHITECT  
& ASSOCIATES  
代表 山中 猛  
桂デザイン事務所  
代表 桂川 眞